

047

未来の防災リーダーを育てる 「火山ジュニアマイスタースクール」

取組主体

雲仙岳災害記念館（がまだすドーム）

従業員数

想定災害

実施地域

24 人

火山噴火

長崎県

- ・ 雲仙・普賢岳噴火災害の記憶と教訓を伝える施設が、未来の防災リーダーを育てるスクールを企画。
- ・ 国内でも珍しい、火山の噴火をテーマとした、年間を通じた子ども向け資格制度の教室。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

大災害の経験を次の世代に伝える、人材育成に向けた取組

- ・ 平成 2 年から 7 年にかけて続いた長崎県にある雲仙岳の噴火活動は、多くの死者や負傷者を出した。この災害と復興を伝えるために設立された雲仙岳災害記念館（がまだすドーム）は、噴火災害から 28 年目を迎え、若い世代へ災害の記憶と防災知識を伝えることが重要であると考えていた。そこで同館は、令和元年より、火山を正しく知り、有事の際の正しい行動が学べる「火山ジュニアマイスタースクール」を開講した。
- ・ 同講義は、将来の地域の防災を担う若い世代を育てることを目的に、自分で考えて動くことのできる小学校高学年から中学生を対象に年 6 回開講されている。同講義に 3 回以上、同館が開催するイベントや実験プログラムに 2 回以上参加することで「火山ジュニアマイスター」に認定され、認定証や記念品等が授与される。
- ・ 講師は、同館の学芸員のほか大学教員等が務めており、講義だけでなく子どもが自分で考えて動くことを大切にする授業構成となっている。火山実験では、溶岩の流れる速度やマグマの温度を測定したほか、語り部ガイドへの聞き取りを踏まえて「こども新聞」を作成するなどの取組を実施した。



七輪を使ってマグマを再現し、温度を放射計で測定



語り部への聞き取りを通じて噴火当時の様子を知る

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- ・ 同館を運営する財団は、防災教育推進助成事業を実施している。長崎県の小中高生のグループが同館を利用して防災学習を行う際には、グループの代表者に経費の一部を助成し、若者の防災教育への参加を促している。

3 現状の課題・今後の展開等

- ・ 同館は、各教室の実施において、本来のねらいが十分達成できたのか不安であると感じたため、事前の講師との打ち合わせを行い、内容の深堀りを行っていく必要があると考えている。
- ・ 今後も継続的に実施することで次世代の育成を進めるとともに、多くの人に参加してもらえるよう周知を行っていく。

担当者の声

- ・ 災害の経験から、今何を伝えていくのか。28 年を経過して記憶が薄れていく中、あらためて防災についての「いま」を、ここ「がまだすドーム」から発信しています。

問合せ先

雲仙岳災害記念館 法人番号：4310005007146

TEL：0957-65-5555 FAX：0957-65-5550 E-Mail：info@udmh.or.jp